

熊本に笑顔 人形落語

9日 大阪で披露
笑福亭鶴笑さん



手作りの人形を手に「落語を聴いて笑うことで、熊本を元気づけたい」と語る笑福亭鶴笑さん（大阪市中央区で）

熊本地震の被災地の子どもたちに笑顔を届けようと、落語家の笑福亭鶴笑さん（56）（大阪市北区）が、熊本地方に伝わる民話を題材にした創作落語「はなたれ小僧さま」をつくった。手製の布人形を動かしながら語る「ペット落語」として、9日、大阪市中央区のなんばグランド花月で初披露。今秋にも現地でのチ

ヤリティー公演を計画している。鶴笑さんは「落語を通じて被災者支援の輪を広げたい」と話している。鶴笑さんは、分かりやすい落語を目指して25年ほど前、登場人物の人形を動かして口演する「ペット落語」を考案。約30演目をレパートリーにしている。福祉施設や東日本大震災の避難所での上演活動によっ

民話題材「子ども元気に」

て2014年に厚生労働省の「児童福祉文化財」に選ばれた。

熊本地震後、熊本にちなんだ落語を創作しようと、図書館で熊本地方の民話を調べ、「はなたれ小僧さま」を見つけた。貧乏な木こりの前に、不思議な能力を持つ小僧が現れ、木こりの願いをかなえてやるストーリーに、木こりが「商売の手を広げたい」と願うと、勘違いした小僧が両腕を伸ばす笑いの場面を盛り込み、3か月かけて練り上げた。

9日の初披露には、熊本県のPRキャラクター「くまモン」もゲスト出演。会場には募金箱を設置する。鶴笑さんは「復興が思うように進んでいない現状に目を向けてほしい。被災地で上演し、子どもたちを元気づけたい」と話している。